

「confa」はConsumer(消費者=道民)とFarmer(農業者)のConsensus(合意)から名付けたもので、「消費者と農業者がもっとふれあえるように」「都市と農村をつなぐ架け橋になりたい」の思いを込めています。

CONTENTS

特集 食と地域を支える北海道農業

- 1p 種づくりからお米づくりまで
①品種開発/
(地独)北海道立総合研究機構
上川農業試験場(比布町)
- 3p ②種子生産/
江部乙町水稲採種組合(江部乙町)
ホクレン滝川種苗生産センター
(滝川市)
- 5p ③お米生産者/
(株)佐藤農場(妹背牛町)
- 7p enjoy 6次産業化
最北のワイナリー 森 臥
(名寄市)
- 8p 笑顔を広める酪農女子
小林晴香さん
(別海町)
- 9p ふれあいファームへようこそ
- 11p コンファ農業教室
- 13p アオハル レシピ
三笠高校生レストラン
まごころきっちん(三笠市)
- 14p 北海道からのお知らせ
- 巻末 農家直営の
ピザ&カレーレストラン

電子ブック公開中!
Hokkaido ebooks

こちらのQRコードを
読み取ってください。



<http://www.hokkaido-ebooks.jp>

※スマートフォン、タブレットの方は専用アプリ(無料)をダウンロードの上、ご利用ください。

特集 食と地域を支える北海道農業

おいしさも、生産量もトップクラス!
北海道のお米

作付面積・収穫量ともに全国で一、二位を競い、
食味ランキングでも安定したおいしさを保つ北海道米。
今や全国でも注目の北海道のお米には
品種開発から種籾作り、安全・安心で品質の高い生産まで、
多くの人のバトンリレーがありました。

品種開発や
育種技術の研究で
市場のニーズに応える



10年かけて誕生する
時代に合った新品種

明治19年の創立以来、130年以上にわたり北海道農業発展のため、お米を中心とした品種改良や栽培技術の研究を続けている上川農業試験場。「米の食味ランキング」で最高評価の「特A」を獲得している「ゆめぴりか」も、ここで開発されました。夏と冬の寒暖差が50度以上にもなる試験場の敷地内には、開拓期から現在開発中のお米まで、さまざまな品種が試験栽培されています。

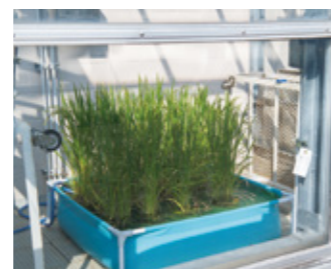
「品種改良にはおよそ10年もの年月がかかります。将来的なようなお米が必要とされるのかを予測し、市場のニーズや消費者の生活スタイル、気候変動、農業の課題などを



(地独)北海道立総合研究機構 上川農業試験場 宗形 信也 氏
研究部 水稲グループ 研究主幹



多様な品種が栽培されている試験場の水田



人工的に冷涼な気候を作り、生育状況を観察

総合的に分析し、求められる品種を絞り込んでいきます」と語る宗形さん。栽培技術の構築や稲の観察、成分分析や食味試験などに加えて、研究者同士のディスカッションや思考の時間など「プラスα」が品種開発には欠かせません。

「省力化」で北海道米の未来を守る

少子高齢化が進み農業の担い手不足が課題となる中、田んぼに種籾を直接播く直播栽培は、多くの手間を要する育苗や田植えの作業がないため、大きな省力化に繋がります。2019年から一般栽培が始まった直播栽培用の新品種「えみまる」も、上川農業試験場で誕生しました。

「消費者の方がおいしいと言ってくれて、生産者の方が作りやすく、収量の多いお米を」との思いで、北海道の気候風土に合うお米を研究し続ける試験場。おいしさの追求に加えて、将来を見据えた品種開発や栽培技術の研究を進めることも北海道米を支える大切な取り組みのひとつなのです。



毎年60種類もの交配を行い、選抜が繰り返される



秋の収穫以降は、食味や成分分析などの試験が続く